

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	若年アーティストの創作活動サポート事業
資金分配団体名:	認定NPO法人北海道NPOファンド
実行団体名:	特定非営利活動法人みなと計画
実施時期:	2020年10月～2021年11月
事業対象地域:	北海道
事業対象者:	若年アーティスト

Version 3.2
日付: 2021年12月26日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>基盤(創作環境・精神・生活)が弱く、コロナの影響で孤立し、創作意欲の減退が起きている若年アーティストが今後も創作活動を続けられるようサポートをした。</p> <p>>活動内容 ①孤立する若年アーティストの相談窓口を設け、ニーズに応じたサポートを行った ②若年アーティストの現状を把握する意見交換の場を設けたり、個別ヒアリングを行ったりしてニーズを把握した ③福祉事業者と連携して創作活動と仕事の両立が可能な働き方を検討した ④若年アーティストと地域の店舗等をつなぎ、自身の作品を通じて収入につなげられる仕組みを作った ⑤テーマを設けて所属年齢にとられないアーティストの合同展を開催した ⑥地方で仕事やボランティアをしながら創作活動を行う可能性を検討した ⑦他団体との連携による若年アーティスト支援の役割分担を模索した</p>
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>>課題設定：大学が機能せず、アートを学ぶ若者が想像以上に窮地に陥っていることが分かった。卒業生も発表の機会を失うなど想定していた課題を抱えていた。</p> <p>>対象者へのリーチ：相談窓口への相談内容は想定通りだったが、潜在的相談ニーズはまだであると見られ、アプローチに課題がある。そこで、待ちの窓口だけではなく、個別ヒアリングに力を入れてニーズの把握に努めた。</p> <p>>事業設計：個別ヒアリングに時間をかけることで現状とニーズを把握し、当初予定していた事業内容を超えてより実態に即した事業展開ができた。例えば有償レンタル事業では、「アーティストトーク」を付加し、まちなかでアーティストのファンを確実に増やしていける可能性を見出した。</p> <p>>プロセス：事業を行う中で、A大学等で表現を学んでいるアーティストとしての展示/販売経験が乏しい B表現活動をしたい/しているが独学のため今後の発展に不安がある という大きく二つの層がフォローされていないことが分かった。それに対して、美術館等の企画展と、仲間内の合同展の中間に位置する展示会を行い、展示の機会の創出、幅広い層からのフィードバック、アーティスト同士の交流を生むことができた。</p>
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	相談先の不足	相談窓口を訪れる若年アーティストが、創作活動を続けている。	相談件数/創作継続数	アンケートによる回答で継続率80%	100%	創作活動を再開し、展示が出来たケースが2件。その他は元から創作をやめずに継続出来ていた。仲間との交流、伴走支援が活動の持続には欠かせないことが分かった。
子ども・学生	居場所の不足	意見交換を通して、若年アーティストたちが気軽に話せる対話の場が出来る。	対話の場の回数	対話の場の回数/6回	6回	市民×アーティスト、アーティスト×アーティストの対話の場を行った。いずれも満足度が高かったが、日頃の人との交流不足や良い対話の機会に恵まれてこなかったことがうかがえた。
子ども・学生	就業困難	福祉事業者と連携したアートに関わる仕事を創出し、若年アーティストが収入を得られるようになる。	若年アーティストが、福祉×アートで生計を立てられるという意識の変容	意識変容(ライフスタイルの確信)率100%	—	コロナの影響により試験雇用までは至らなかったが、雇用条件を提示して意見を求めた範囲では、このスタイルを新たな気づきとして得たアーティストが多かった。
子ども・学生	就業困難	若年アーティストの作品を、地域の店舗・企業等有償で使用される仕組みが出来る。	作品の有償展示を行えるアーティスト数	有償展示を行ったアーティスト数24名	9名	想定以上に手間暇がかかるが、この手間暇をかけることで有意義な関係性が芽生えることが分かった。アーティストも店舗も、引き続き有償展示を行いたいという意向を得られた。
子ども・学生	その他	若年アーティストが、社会課題に目を向け、自身の創作活動を活かそうと考えられるようになる。	若年アーティストが、社会課題に意識を向けられるようになる割合	意識変容(ライフスタイルの確信)率80%	—	社会課題への意識にはまだ及んでいない。但し、有償展示や展示会を経て、確実に視野が広がっているため、このような経験を重ねることで社会との接続ができるものと思われる。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<ul style="list-style-type: none"> 相談窓口を訪れたアーティストが、それぞれに抱える不安を解消させることで、社会から孤立せず継続して創作活動を続けられている。 創作活動を行う上で、収入面の不安を訴えるアーティストが、自身の作品を地域内で発表したり、福祉事業者と連携したアートに関わる仕事で収入を得られるようになる。 若年アーティストがアート分野以外の社会との接点が増えることで、アートを通じた社会貢献を視野に入れられるようになる。
考察等	<p>若年アーティストは社会的に孤立しがちであり、アート業界でも十分なサポートが出来ていない。そのため才能はっても創作活動を続けていくことが困難な若者が相対数いることが鮮明になった。今回、スタッフによる伴走や市民との交流によってこれまでは自分のために創作していたものが、このように喜んでくれる誰かのためにもなることが分かり、作家としての意識が芽生えたということ話すアーティストが複数名居た。アーティストである前に一人の若者として接することを大切にしていって進めてきたが、このスタンスによってアーティストとの信頼関係を築き、社会との接続に成功したと考えられる。</p>

V. 活動

活動	進捗	概要
①若年アーティストオンライン相談窓口の開設	計画通り	受けた相談には充分向き合えたが、窓口アクセスできていない潜在層が多くいることもうかがえた。
②若年アーティストのニーズを把握する意見交換の開催	計画通り	対話の場への参加のハードルが高く、途中からは展示会に付加したり個別ヒアリングに切り替えたりした。
③福祉事業者と連携したアートに関わる仕事の創出（創出に向けた福祉事業者、若年アーティストの意見交換の場の構築含む）	遅延あり	試験雇用までは至らなかったが現実的に即した雇用条件を作成出来た。雇用の実現性は高く引き続き進める。
④若年アーティストの作品を地域の店舗や企業等とマッチングする仕組みの構築	ほぼ計画通り	人数こそ至らなかったが枠組みとしては機能し、地元紙にも取り上げられるなど成果を見た。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	個別ヒアリングや対話の場で聴かれたニーズから、若者の状態に合わせた二つの展示会を開催することとした。これにより店舗での有償レンタルも含めて、多くの「表現したい」若者にアプローチできるスタイルが確立できた。この取り組みは、大学関係者や若手アーティストからも評価を受け、事業の継続を強く望まれたことは当初の想定を上回る成果と言えた。店舗での有償展示は先進事例が見当たらない試みであったが、店舗側も有償展示に協力的なところがあり、継続して実施する希望も聴かれたことは、若手アーティストの創作活動の幅を広げることにつながるだろう。また、アートを通して店舗が従来の顧客と新たな関係性を築けたり、画壇では評価されない作品であってもその作品に涙する人も居たり、展示作品の購入につながる例もあったり、これまで若者のアートが単に広く触れられてこなかっただけで、未開拓の分野であることが実感できた。アートが社会に果たす役割と、この事業を続ける意義を感じた。
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	店舗での有償展示と独立系キュレーターによる展示会という二つの発表の機会は、若手アーティストの評価が高かった。有償展示では、自らの作品がお金になる実感と共に多くの市民からフィードバックを受けられ、自身の作品の価値の再認識や作家としてのキャリアへの意識が芽生えていた。展示会は作家同志の交流の機会としても機能し、今後の創作意欲や作家としてのキャリアの形成の仕方についてお互いに刺激を与え合う効果が見られた。さらに、基盤に相談窓口を設けアーティストの前に一人の若者として向き合う福祉的側面も併せ持つことで、既存のアーティスト支援との差別化を図ることが出来た。裏を返せば、いずれもこれまで業界には無かったアプローチであり、これを必要とするアーティストが相当数いることが伺えた。想像以上に当事業の継続を望む声が、アーティストのみならず、店舗や市民からも聴こえているため、相談窓口、有償展示、展示会の3本を軸とした事業を継続するための方法を模索している。
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
NPO法人大雪自然学校	現地に2週間滞在し、子どものアート活動の支援を行いながら事業に従事し、滞在しながら創作活動を行う可能性を模索した。
SCARTS	アーティストを取り巻く状況について意見交換をし、情報発信分野に強いSCARTSとの役割の違いを明確にすると共に協働体制が構築出来た。
北海道教育大学岩見沢校	当初から助言を頂いていた教授に成果を認められ、来年1月に大学の講義での事例紹介を行うこととなった。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	5,000,000	5,004,790	100.1%
	管理的経費	75,000	0	0.0%
合計		5,075,000	5,004,790	98.6%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	北海道新聞江別版(2021.10.20)コロナ禍の作家展示支援～有償で作品レンタル
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	相談窓口・アーティストポートフォリオ用WEBサイト 相談窓口PRチラシ 展示会等のPRチラシ
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	WEBサイト及びチラシへの掲示
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	一部未公開	全ての規定類の掲載にはページ構成の変更が必要であり、準備中。
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	

②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3. 関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4. コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5. ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6. 報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	団体監事による監査を受けた。
7. 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金を申請、または受領していますか。	いいえ	
8. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	